

2022年7月例会報告
土浦の歴史を学ぼうコース

開催日	2022年7月6日（水）
集合場所	土浦駅西口
集合時間	9時00分
開会式	9時10分～25分
コース	土浦駅西口→中城通り周辺→上高津貝塚→穴塚大池→般若寺 →郁文館正門→西門周辺→ガマの油発祥の地→亀城公園（解散）
距離	14km
参加者	14名
天候	曇り

ウォーキング状況

台風から変わった熱帯低気圧の通過の影響で雨と風が予想されましたが、集合時間には青空も一部見える天気となりました。

今回のコースは「土浦の歴史を学ぼう」をテーマに、城周辺及び郊外にも範囲を広げてコース設定しました。城周辺は観光協会が今年の春発行した「土浦古絵図」を元に、昔の城跡を尋ねました。



まずは恒例の戸田さんの3分間講演、今回は総集編でした。（次回がまた楽しみです。）

コース説明、準備体操後スタートしました。

土浦駅前通りを城の方向へ行くと高架道路があります、ここは昔上沼と下沼及び霞ヶ浦をつないでいた川口川が流れていたところで、城の最外郭の堀となっていた所です。今は埋め立てられ面影もありませんが。中城通りは旧水戸街道で川口川に桜橋という橋が架かっていて、南北をつなぐ重要な橋でした。今は碑があるだけです。

中城通りでは矢口家、大手門跡、等覚寺（極楽寺の古鐘）、東光寺（南門の土塁跡）を見学し、城下町の街並み、道路の作りを楽しみました。

旧水戸街道を南に進むと桜川に架かる銭亀橋に来ます、当日説明できませんでしたが、昔は木製の太鼓橋で数多くの土浦の風景画に描かれた、風光明媚なところだったそうです。銭亀の呼称の由来はわかりませんでした。

6号線土浦バイパス横の南北朝時代の高井城跡を經由して上高津貝塚へ、今から3～4000年前の貝塚跡で、歴史広場に貝塚の実物の断面が展示されています。



貝塚の周回道路で貝塚の上に上がると、貝塚の規模からすると思ったより面積が小さく感じましたが、1000年近くも生活していれば、これだけの貝殻跡になるのかと納得しました。

竪穴住居が再現されていて、上面の面積は4.4ヘクタールあり、貝塚の規模としては大きいそうです。



貝塚見学後、穴塚大池へ、この道は鎌倉街道との案内がありました。木々に囲まれた道で猛暑の時はひと時の涼みを楽しめたのに、今日はその必要も有りませんでした、やはりこの道は好いですね。



穴塚大池のほとりを廻り、足を進めると、急に風景が変わり、街並みが見え、下界に出たと変な感じを受けました。

等覚寺の案内板に書かれていた般若寺が直ぐ近くなので、急遽訪れる事にしました。



この古鐘は鎌倉の大仏の制作にもかかわった鋳物師が制作したそうです。

般若時より関東ふれあいの道で佐野子地区を通り桜川堤防の桜並木から土浦橋で城方向に進みました。

桜川堤防では少し小雨にあいましたが、心地よい小雨でした。

郁文館正門、西門跡と経由し神龍寺の西側に残る土墨跡に沿って新川に出て、新川沿いに進み北門跡・旧水戸街道と城の堀跡の西側、北側を歩きました。

次は白水稻荷神社です、この神社の隣に七兵衛長屋があり、明治の後期にここに住んでいた住人が外用薬を作るため、がまを捕らえて天日干しにし種油等と混ぜ煮詰めて液状化し貝殻に入れ、香具師が筑波山麓で販売したのが、「がまの油」です。ここが発祥の地だそうです。



効用はいかがかはまだ試していません。

でも色合いは何か効きそうな感じがしますが？

最後にツェッペリン飛行船の1/20 模型がある亀城プラザ（休館日でした）を訪ねて、亀城公園にて13時10分に解散となりました。

皆様ご苦労様でした。

先週の猛暑が信じられない程のウォーキング日和でした。

日頃の行いが良いと天気も味方してくれますね。（勿論参加者の）

松崎 寛（記）